

安全報告書

平成23年4月

○ ごあいさつ

3月11日に発生した東日本大震災では、多くの人命が失われるとともに各地の重要施設に大被害をもたらしました。被災された皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、復旧・復興に尽力されている方々に心から敬意を表します。

当社においては、地震による列車への直接の被害はなかったものの、沢入・原向駅間において約800㎡の土砂流入等の被害がありました。幸い関係者の努力により、4月1日から全線で運転を再開することができましたが、改めて災害の恐ろしさを実感させられました。

当社の線路は、山間を縫うようにして走っている線区ですので、災害による事故の防止には今後とも最大限の努力をしていく所存であります。

わたらせ渓谷鐵道株式会社
代表取締役社長 樺澤 豊

1 安全に関する基本方針

(1)基本方針

輸送の安全確保は、鉄道事業に携わる当社にとって基本的な使命であり、会社経営の原点でもあります。この認識のもとに当社は、「安全で安定した輸送」を最重点の目標とし、法令の遵守と危機管理体制を強化し、更なる安全性の向上を図ってまいります。当社の事故防止活動は、他社事故事例も生かしながら、改めて「意識した指差確認喚呼」、「安全基本ルールの厳守」に社長以全社員で取り組みます。

(2)目標

運転事故など大きな事故を絶滅するとともに、お客様にご迷惑をお掛けする輸送障害についても、極力防止することを目標とします。

(3)重点実施項目

目標を達成するため、次の項目について取り組みます。

- ・ 安全管理体制の確立
社長の強力なリーダーシップのもとに、現場の情報、課題を把握するとともに、現場にフィードバックする体制を構築し、各部門が行う事故防止活動の実施状況を点検しながら推進します。
- ・ 教育、訓練の充実
知識・技能教育を引き続き実施して技術力の強化を図るとともに、突発的事故等異常時の取扱い実技訓練を充実して実践力の向上を図ります。
- ・ 車両、設備の故障防止
計画的保守管理の強化を図るとともに、更新修繕、重要部品の計画的取替を促進します。
- ・ 自主的な事故防止活動の推進
あらゆる機会を通じて、自主的な事故防止活動を積極的に推進します。

2 平成22年度運転事故・輸送障害発生状況

| 年度別 | 運 転 事 故 | 輸送障害(列車が30分以上遅れたもの) | |
|-----|--------------|---------------------|---------------|
| | 衝突、脱線、踏切事故など | 設備・車両等の故障によるもの | 雨などの自然災害によるもの |
| 18 | 0 | 5 | 3 |
| 19 | 0 | 3 | 4 |
| 20 | 0 | 2 | 7 |
| 21 | 0 | 5 | 5 |
| 22 | 0 | 3 | 4 |

3 平成22年度安全対策実施状況

| 項 目 | | 施 行 箇 所 | 工 事 費(千円) |
|------------------|-----------------|-----------------|-----------|
| 線 路 施 設 | 落石等防護設備(土留め) | 大間々～上神梅間9k080付近 | 659 |
| | 落石等防護設備(防護ネット) | 上神梅～本宿間12k020付近 | 722 |
| | 落石等防護設備(土留め) | 本宿～水沼間12k341付近 | 7,835 |
| | 落石等防護設備(土留め) | 本宿～水沼間13k556付近 | 1,771 |
| | 落石等防護設備(土留め) | 水沼～花輪間16k035付近 | 632 |
| | 落石等防護設備(土留め) | 沢入駅構内31k913付近 | 9,596 |
| | 落石等防護設備(竪下水) | 沢入～原向間33k420付近 | 1,408 |
| | 落石等防護設備(土留め) | 沢入～原向間33k717付近 | 2,129 |
| | 落石等防護設備(土留め) | 間藤～本山間42k650付近 | 492 |
| | レールの重軌条化 | 小中～中野間22k100付近 | 4,110 |
| | 計 | | 29,354 |
| そ の 他 | ATS-P搭載車両新造(継続) | | 129,100 |
| | ATS-P車上装置試験器 | | 14,700 |
| | 計 | | 143,800 |
| 合 計 | | | 173,154 |